

新たな挑戦

持続可能な農業をアフリカの大地で。

株式会社クリスタル

代表取締役社長 木下正義

ウガンダで始めた新たな取り組み

1997年7月に自然の中で育ったコーヒー豆を求めて見果てぬ地ウガンダ共和国へ渡り、人生の半分以上をウガンダと共に歩んできた。途上国でのビジネスの難しさを肌で感じるとともに、国内外問わず多くの人々と出会えた23年間でもあった。そして2020年、これまでの経験を踏まえてウガンダで新たな挑戦を始めた。

前ウガンダ駐日大使ビリグア氏の協力の下、「UCAP (UGANDA CRYSTAL AGRICULTURE CORPORATION.)」を設立。同国で自然栽培農産物の普及、栽培、加工、販売、輸出を行う。目的は、生産者に対する職業能力の開発および雇用機会の拡充。特に貧困や教育、結婚、出産、病気など、開発途上国の女性を取り巻く課題の多くはジェンダーに起因する不平等が背景にあることから、女性を中心とした農業に重点を置いた活動に力を注いでいく。

(1) バニラビーンズ栽培で脱貧困

ウガンダにあるブコメロ地区でバニラビーンズ栽培の普及活動を開始した。始まりは同地区の生産者を支援している福岡のNPO法人のこんな一言から。「一般的な野菜や果物を作っても生産者の生活は一向に豊かにならない」。

同団体が支援するブコメロ地区では主にトウモロコシ栽培が行われている。だが、トウモロコシの現地取引価格はとても安価でキロ当たり

日本円で10円程度。また、水分量が高い作物のため長期保存に向いておらず、収穫した半分以上が破棄されるなどの問題に直面していた。トウモロコシは生活に欠かせない大切なものではある一方で、生産者の生活を成り立たせるためには世界の食料需要を考慮しながら、より付加価値の高い作物をつくらなければならない。

世界、食料、需要、高付加価値……、その時、私の頭の中に浮かんだのが「バニラビーンズ」。現在、世界的に需要が高まり高値で取引されている。もともと同国でも広く栽培されていることを知っていた私は、同団体が支援する生産者のトウモロコシ畑の一部を開墾し、バニラビーンズの栽培を行うことを提案。18年3月、300株の苗が植えられた。20年7月現在、苗は順調に育っており、21年には収穫が始まる予定である。同時にブギス地区(当社のコーヒー豆契約農園)での栽培も行って、すでに600キロほどの収穫が始まった。

(2) ハーブ栽培でジェンダー格差改善

神奈川を拠点に置くNPO法人とのハーブ栽



バニラ収穫風景



収穫直後のバニラビーンズ